

特別展

細川コレクション 永青文庫 茶道具名品展

2008年

3月1日(土) — 4月13日(日)

休館日 月曜日

開館時間 9時30分—16時30分(入館は16時まで)

入館料 一般1000円・学生800円・団体(20名以上)800円/呈茶含む
主 催 表千家北山会館・財団法人永青文庫

表千家北山会館

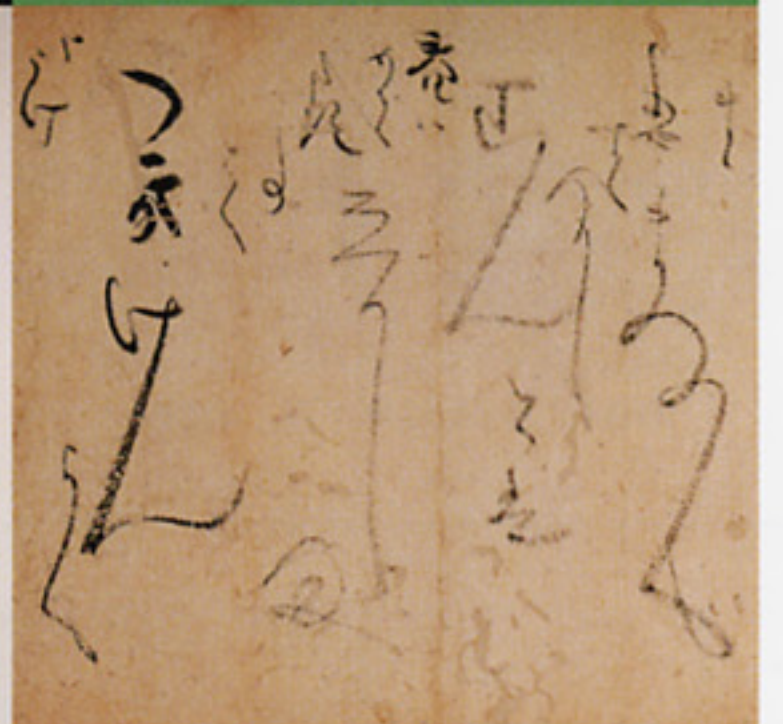
京都市北区上賀茂桜井町61 〒6003-8054
電話 075-724-8000 Fax 075-724-8007
<http://www.kitayamakaikan.jp>



上より
●青磁水指
●唐物茶入 利休尻ふくら
●細川幽斎像(部分) ※前期
●細川玉(ガラシャ)消息(部分) ※後期
●松竹梅文芦屋釜



●灰被天目茶碗 珠光天目
●和歌扇面 細川幽斎筆(部分) ※前期



●青貝中次 ※後期
●千利休作 竹一重切花入 ※後期



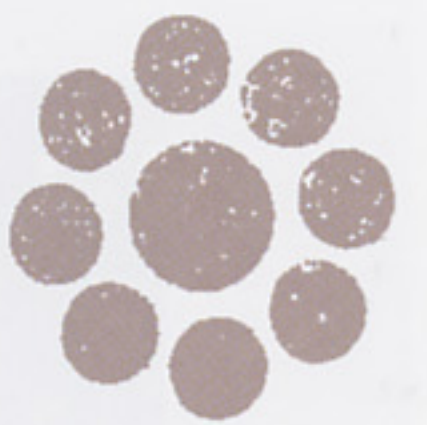
●染付孔雀香合



特別展

細川コレクション 永青文庫

茶道具名品展



東京・目白にある永青文庫は、細川家に伝来する文化財を収蔵する美術館です。

初代細川藤孝（幽斎）は安土桃山時代の大名で、將軍足利義晴・義輝・義昭に仕えた後、織田信長の部将となり、永禄十一年（一五六八）、洛西長岡の青竜寺城を攻め落とし、信長より長岡の地を与えられました。天正八年（一五八〇）には丹波一國を与えられました。本能寺の変に際しては信長を悼んで隠居、剃髪し、山崎の合戦の後には豊臣秀吉から所領を安堵されます。関ヶ原の合戦以降、徳川家康に仕えた幽斎は、歌学や有職故実に通じた當代きつての一流文化人でした。特に和歌は三条西実枝から古今伝授を受けたほどであり、茶の湯や連歌においても千利休や津田宗及、里村紹巴らとの親交が知られています。

二代細川忠興（三斎）は、明智光秀の娘お玉（ガラシャ夫人）を妻に迎えました。本能寺の変に際しては玉を幽閉蟄居させた後、秀吉側について参戦し、家は存続しました。秀吉の死後、三斎は家康に与し、慶長六年（一六〇一）、豊前国三十九万石を領し、小倉城に入城。さらに子・忠利が豊前から肥後熊本に移封されたのを機に八代城に移りました。三斎は父・幽斎の文化的教養も受

け継ぎ、文芸芸能に通じた武将であり、特に茶の湯では、利休七哲の一人に数えられます。天正十九年（一五九一）、秀吉より堺に蟄居を命じられた利休を古田織部とともに淀の舟付場で見送ったことは有名です。

三代の忠利は將軍家光の打ち太刀を務めたこともあり、宮本武蔵を客分として遇したり、茶の湯にも熱心で、地元八代焼などを興したりしました。

細川家はその後、連綿と代を継ぎ、肥後五十四万石の外様大名として幕末に至ります。現、十八代当主は元内閣総理大臣・細川護国氏です。

このような名家細川家の歴代が収集された茶道具より、今回の名品展には約七十点を厳選し、展示します。

千家と縁浅からぬ細川家に伝来した由緒ある茶道具がまとまった形で京都の地で展覧されることは初めてのことであり、第一級の茶の湯の美に触れていただける絶好の機会となります。

皆様のご来館をお待ちしております。

※会期中、一部の作品については前期（3月1日～3月23日）・後期（3月25日～4月13日）に分けて展示をいたします。



瓢花入 銘顔回 ※後期



御道具附 細川三斎筆 ※後期



粉引茶碗 大高麗



千利休作 茶杓 銘ゆがみ ※前期



表千家北山会館

当館への交通について

- JR「京都駅」より
 - 地下鉄烏丸線国際会館行「北山駅」下車
4番出口をでて西へ徒歩約5分
 - タクシー約30分
- 阪急電車「四条烏丸駅」より
 - 地下鉄烏丸線乗り換え「北山駅」下車
- 京阪電車より
 - 「三条駅」より地下鉄乗り換え「烏丸御池駅」
乗り継ぎ「北山駅」下車
 - 「出町柳駅」よりタクシー約15分

〒603-8054 京都市北区上賀茂桜井町61
電話 075-724-8000 Fax 075-724-8007
<http://www.kitayamakaikan.jp>

公開文化講座のご案内

竹内順一氏（財団法人 永青文庫館長）

演 題「永青文庫の茶道具」

日 時：3月22日（土） 14時～16時

会 場：表千家北山会館・清友ホール

参加費：2000円

（呈茶席での呈茶、特別展見学を含む）

定 員：200名

※2月15日（金）より電話申込み受付（先着順）